# 取扱説明書

26x32 Thunderbolt 3 | USB 2.0 | Audio Interface

# DISCRETE 8 PRO

## SYNERGY CORE

Version 1.1–14.04.2022

*各項目のクリックでジャンプします


1.0 ご使用になる前に ..... 3

2.0 セットアップ ..... 5

2.1 システム要件 ..... 6

2.2 Windows 10 の設定 ..... 7

2.3 macOS の設定 (10.14 or later) ..... 9

3.0 ANTELOPE LAUNCHER ..... 11

‘Devices’タブ ..... 11

'Plug-ins’タブ ..... 14

'System’タブ ..... 15

Login ボタン ..... 16

Settings ボタン ..... 16

4.0 フロントパネル解説 ..... 18

3.1 システムメニュー ..... 22

3.2 コントロールメニュー ..... 24

5.0 リアパネル解説 ..... 25

6.0 ソフトウェアコントロールパネル ..... 30

6.1 Quick Start ..... 31

6.2 マウス・キーボードショットカット ..... 35

6.3 Main View ..... 36

6.3.1 Function Strip 1 ..... 36

6.3.2 Function Strip 2 ..... 37

6.3.3 PREAMPS Strip ..... 41

6.3.4. Input Selectors ..... 42

6.3.5 Main tabs ..... 43

6.3.5.1 MIXERS ..... 44

6.3.5.2 DIGITAL OUTS ..... 45

6.3.5.3 LINE OUTS ..... 46

6.3.5.4 DAW ..... 46

6.3.5.5 AFX ..... 48

6.3.5.6 ROUTING ..... 50

6.3.5.7 AuraVerb ..... 53

6.3.5.8 MONITORING CONTROL ..... 58

7. afx2daw ..... 59

8. 製品仕様 ..... 60

9. カスタマーサポート情報 ..... 62

# 1.0 ご使用になる前に

この度は Antelope Audio Discrete 8 Pro Synergy Core をご購入いただき誠にありがとうございます。製品をご使用になる前に、下記内容をぜひご一読ください。

Discrete 8 Pro Synergy Core におけるソフトウェア・コントロールパネルは、他のすべての Antelope Audio インターフェイスと同様、DAW との「仲介役」となっています。ゲイン調整、ルーティング、エフェクト処理、内部ミキシング、メーターなどの調整・設定作業をコントロールパネルから行うことで、本機はその能力を発揮いたします。オーディオ信号は DAW にルーティングされ、マルチトラック、ステム、2 チャンネルステレオなど、お好みのフォーマットで録音することができます。

もしかしたら本機の使った作業フローやアプローチは、これまで慣れているものとは異なると感じるかもしれません。特に、近年のレコーディングを行っている方々の馴染みのあるワークフローでは、オーディオインターフェイスをただコンピューターと接続してオーディオを出し入れする箱のように扱い、あとの作業のほとんどは DAW 内で行う、というものでしょう。もちろんこのような使用方法も可能で、Discrete 8 Pro Synergy Core でもフロントパネルのディスプレイを確認することで Gain コントロールとモニタリングをして、DAW ではレコーディング、ミキシング、マスタリングを行うというような形になります。

しかし Discrete 8 Pro Synergy Core では、一度設定を行ってしまえば、コンピューターとの接続を解除したとしてもそのままスタンドアロンで使用することも可能なのです。この場合、本機はフロントパネル・コントロールから操作するデジタルミキサーとして機能します。そしてルーティングの設定はソフトウェア・コントロールパネルから行えます。

本機使用にあたって、コントロールパネルの操作に慣れることをお勧めします。Antelope Audio の製品を初めてお使いになる方が陥りやすい問題のほとんどは、このコントロールパ

ネル内の設定や調整で解決できることが多いのです。例えば、オーディオの録音と再生時に起こり得る音が出ないなどのよくある問題は、正しい信号のルーティングの設定で解決することができます。

もし、お困りのことがありましたら、チケットシステムで弊社のカスタマーサポートチームに遠慮なくお問い合わせください。また、YouTube で Antelope Audio のビデオチュートリアルをご参考にしていただくことも可能です。また、サポートページにある Knowledge Base もぜひご活用ください。

改めまして、この度はご購入いただきありがとうございました。

*Team Antelope*

## オンラインアクティベーション

弊社のオーディオインターフェイスをお使いになる前に、必須のオンラインアクティベーション（製品登録）が必要となります。このプロセスを実行することで、製品保証の有効にする上、特別なソフトウェアパッケージや限定製品オファーへアクセスができるようになります。

製品のアクティベーションを成功させるには、インターネット接続が必要です。

# 2.0 セットアップ

デバイスに AC 電源に接続し、コンピューターの電源を入れます。

1. USB 2.0 Type-B -> Type-A（付属）または Thunderbolt™ ケーブルを Discrete 8 Synergy Core およびコンピューターに対応するポートに接続します。

2. http://www.antelopeaudio.com にアクセスして、アカウントにログインするか、新たにアカウントを作成します。

3. 弊社サポートページからご使用のオペレーテイングシステム（Windows 10 / macOS 10.14 以降）に対応する最新の Antelope Audio Launcher アプリをダウンロードし、インストールしてください。
M1 Mac をお使いの場合 - この記事をご覧ください。

**注意**: Windows での Thunderbolt™ 接続の場合、Launcher アプリの System タブより、最新のドライバーをダウンロードしてインストールします。

4. Antelope Launcher を立ち上げると DEVICES セクションに、Discrete 8 Pro Synergy Core が表示されているので [ACTIVATE] ボタンをクリックし、手順に従ってください。DEVICES セクションに本機が表示されない場合は、SYSTEM セクションからドライバが正しくインストールされているかを確認してください。

macOS 10.15 Catalina 以降をお使いの場合、セキュリティとプライバシーの設定から Unified Driver のインストールを許可する必要がある場合があります - その方法は以下の記事をご覧ください。

5. アクティベーションが完了すると、デバイスが再起動します。その後、Discrete 8 Pro Synergy Core を DEVICES セクションで公開されている最新の Bundle バージョンにアップデートしてください。この方法がわからない場合は、「Antelope Launcher」の章をお読みください。

より詳細な手順については、「Getting Started」ページをご覧ください。

6. Discrete 8 Pro Synergy Core にアナログ機器およびデジタル機器を接続してください。

7. DAW を起動します
   - Discrete 8 Pro Synergy Core を入出力デバイスとして選択します。
   - DAW およびオペレーティングシステムのサンプルレートがデバイスのサンプルレートと一致していることを確認します。

**何かお困りでしょうか？**

サポートが必要な場合はこちらにアクセスしてください。

# 2.1 システム要件

**Mac:**

Thunderbolt™ 2 以上、または USB2.0 以上搭載の Mac（M1 を含む）
macOS 10.13 High Sierra 以上（macOS 11.2 Big Sur 推奨）
ストレージ容量：4Gb 以上
RAM：4Gb 以上（8Gb 推奨）

**Windows:**

Thunderbolt™ 3、または USB2.0 以上搭載の PC
Windows 10（最新アップデート推奨）
ストレージ容量：4Gb 以上
RAM：4Gb 以上（8Gb 推奨）
CPU：Intel Core i3™以上、または AMD Ryzen 1000 シリーズ以上
※注意：Thunderbolt™ 4 搭載の Windows PC との互換性はまだ確認されておりません。
※注意：Windows 11 との完全な互換性はまだ確認中です。

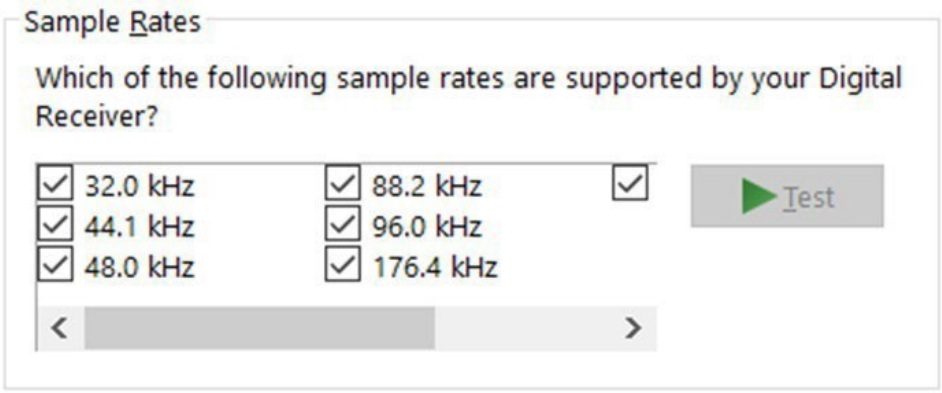
## 2.2 Windows 10 の設定

Windows 10 では、すべてを稼働させるためにいくつかの調整が必要です。

1. コントロールパネルから [サウンド] オプションウィンドウに入るか、システムトレイのスピーカーアイコンを右クリックして [サウンド] を選択します。

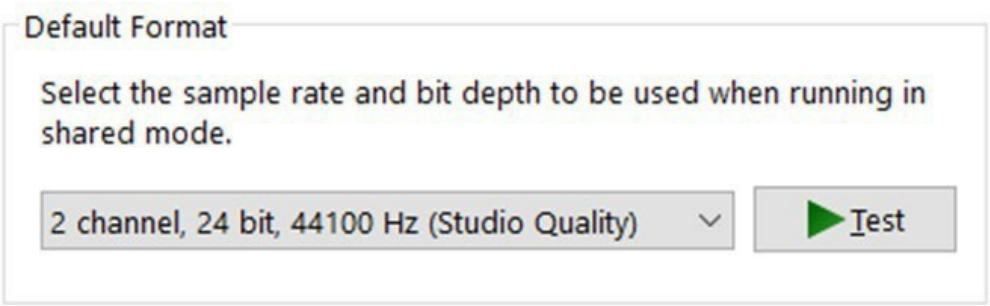
2. [再生] タブに入り、デバイスがデフォルトの再生デバイスとして設定されていることを確認します。デバイスを選択し、[プロパティ] をクリックします。

3. [サポートされている形式] タブに入り、使用可能なすべてのサンプルレートの横にチェックマークを付けます。




4. [拡張機能] タブに入り、すべての拡張機能が 無効 になっていることを確認します。

5. [詳細設定] タブを開き、利用可能な [2 チャンネル、24 ビット] モードのいずれかを選択し、[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。




6. **[録音]** タブに入り、デバイスがデフォルトの録音デバイスとして設定されていることを確認し、[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。

## Tips

- 使用中に中断または障害が発生し、同時に OS からオーディオを再生しようとする場合は、デバイスのサンプルレートが DAW セッションと一致することを確認してください。
- デバイスを無効にし、[再生] タブから再度有効にして、ドライバーを更新できます。これは、デバイスの切断と再接続に似ており、Windows が使用中のアプリケーションの再生設定をリセットします。
- 場合によっては、[再生] プロパティの [詳細] タブで [排他モード] 機能を無効にすることで、複数の再生アプリケーションを同時に実行するのに役立つ場合があります。
- 32kHz のサンプルレートを無効にすることは必須ではありませんが、一般に役立つ場合があります。

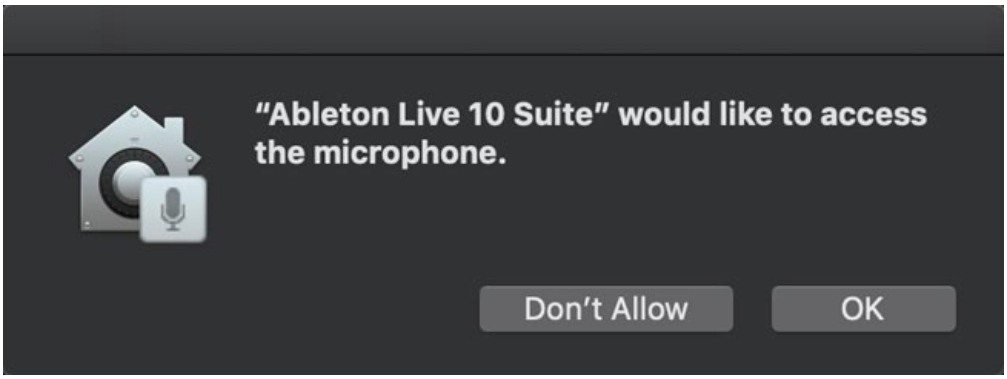
**以下も軽くお読みください。**
Antelope Audio Knowledge Base - Windows 10 Optimization

# 2.3 macOS の設定 (10.14 or later)

macOS Mojave 10.14 で導入された新しいセキュリティ設定により、すべてが正しくセットアップされていても、DAW に入力信号が届かない場合があります。

これらの手順は DAW で Discrete 8 Pro Synergy Core を初めて使用する際に行っていただきます。

1. DAW を起動し、入力デバイスとして Discrete 8 Pro Synergy Core を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。（例 Ableton Live 10 Suite の場合）




2. [OK] をクリックすると、DAW が正常に機能します。

ただし、何らかの理由で上記のイベントが発生しなかった場合、または複数の DAW を使用している場合は、[セキュリティとプライバシー] 設定でそれぞれを手動で調整する必要があります。

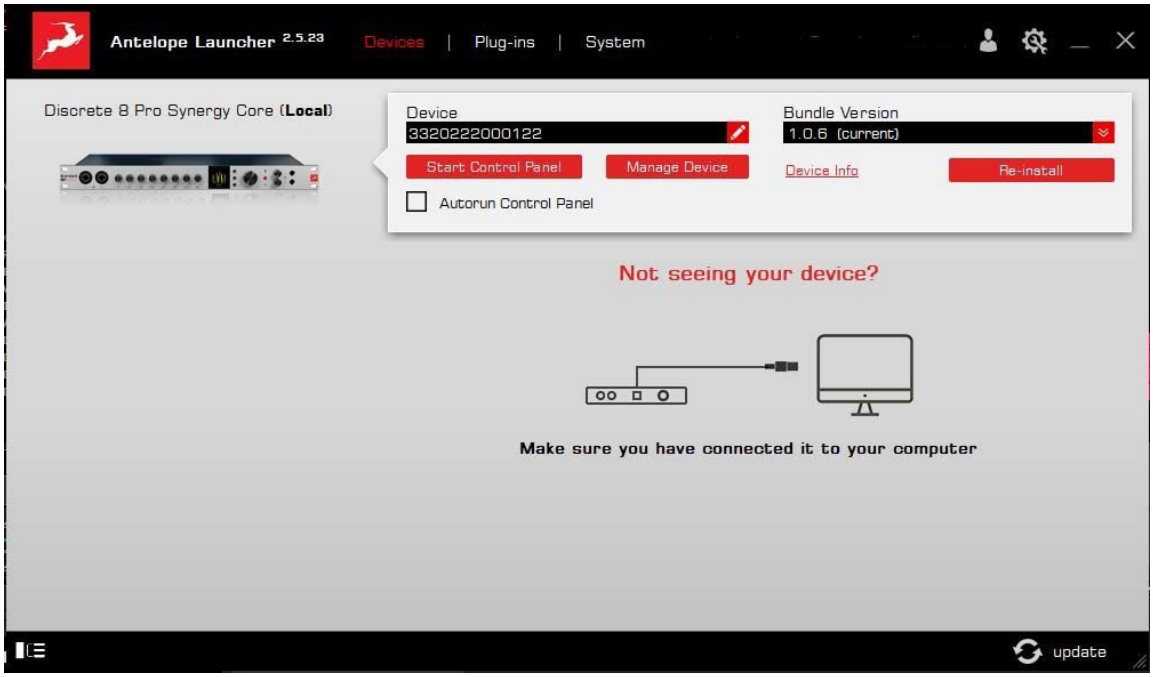
1. メニューバー 左上 [Apple] 記号をクリックして、[システム環境設定] を選択します。 [セキュリティとプライバシー] 設定メニューに移動します。

2. [プライバシー] タブをクリックします。左側の列で、[マイク] を選択します。使用する DAW の横にチェックマークがあることを確認してください。

# 3.0 ANTELOPE LAUNCHER

Antelope Launcher は Antelope Audio 製品の管理とトラブルシューティングのための合理的なハブです。このアプリケーションは以下のタブで構成されています。

## ‘Devices’タブ




現在コンピュータに接続されている全ての Antelope Audio 製品がこのセクションに表示されます。アプリケーションの機能は各 Antelope デバイスで同じです。

以下の機能は「Devices」タブで利用できます。

**[Device 名]**

黒いフィールドをクリックしてデバイスの名前を任意で入力することができます。デフォルトではデバイスのシリアル番号が使用されます。名前を消して欄外をクリックすると、シリアル番号に戻ります。

**[Bundle Version]**

デフォルトでは、このドロップダウンメニューにはお使いのデバイスで利用可能な最新のソフトウェアバンドルが表示されます。ソフトウェアをアップデートしたり、古いバージョンに戻したりするには、ドロップダウンメニューから希望のバンドルバージョンを選択し「Update」ボタンをクリックします。

**[Manage Device]**

クリックすると Antelope Management Wizard が起動します。デバイスの登録/解除、機能（AFX2DAW、Synergy Core FX など）の登録/解除に使用します。

**[Device Info]**

クリックすると以下の情報が表示されます( トラブルシューティングに役立ちます)。

- Serial number
- Hardware version
- Firmware version
- Control Panel version
- USB/Thunderbolt™ driver version
- Software Bundle version

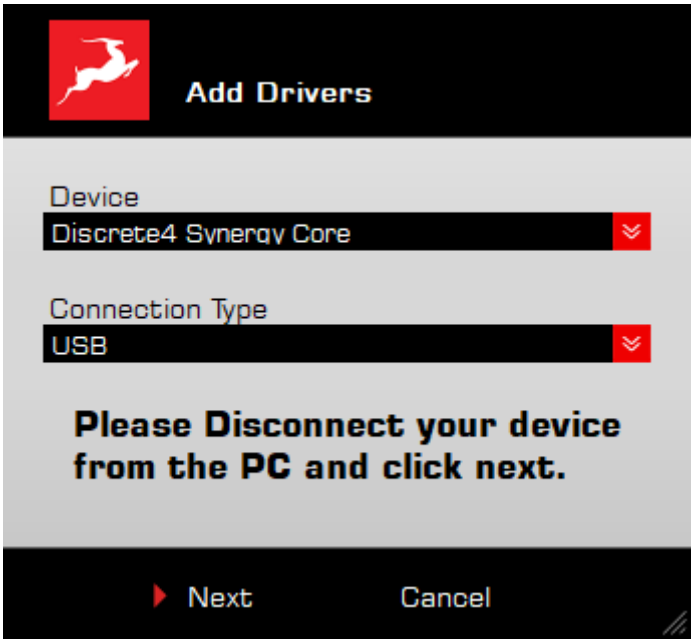
再度クリックして閉じます。

**[Start Control Panel]**

クリックすると本機のコントロールパネルアプリケーションが起動します。デバイスの写真をクリックして起動することもできます。「Autorun Control Panel」にチェックを入れると、Antelope Launcher を起動したときに、特定のデバイスのコントロールパネルが自動的に起動します。

**[Not seeing your device?]**

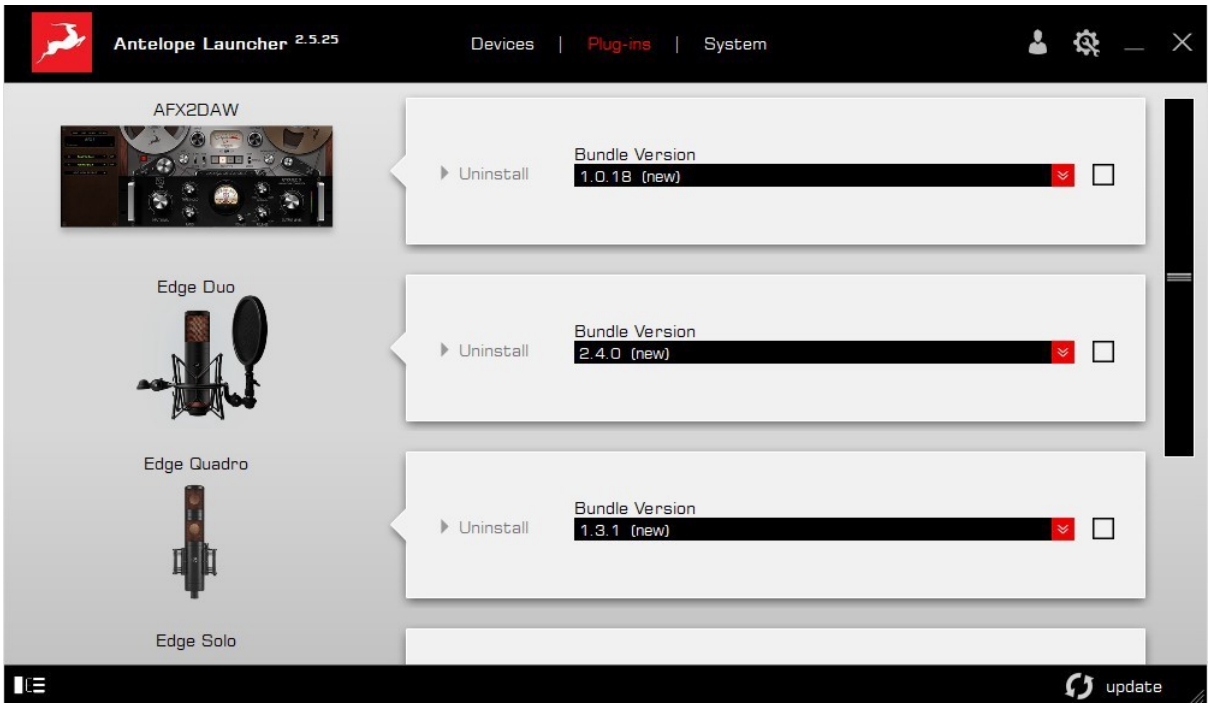
デバイスがリストから消えている場合、最も多い原因はドライバのコンフリクトです。Antelope Launcher を使えばドライバの再インストールやトラブルシューティングが簡単に行えます。「Can't see your device?」をクリックすると「Add Drivers」ウィザードが起動します。




ドロップダウンメニューから Device と Connection Type を選択し、一度コンピュータからデバイスを取り外し、「NEXT」をクリックしてドライバの再インストールを実行します。

**注:**こちらで問題が解決しない場合には Antelope Audio Customer Support までご連絡ください。

## 'Plug-ins’タブ

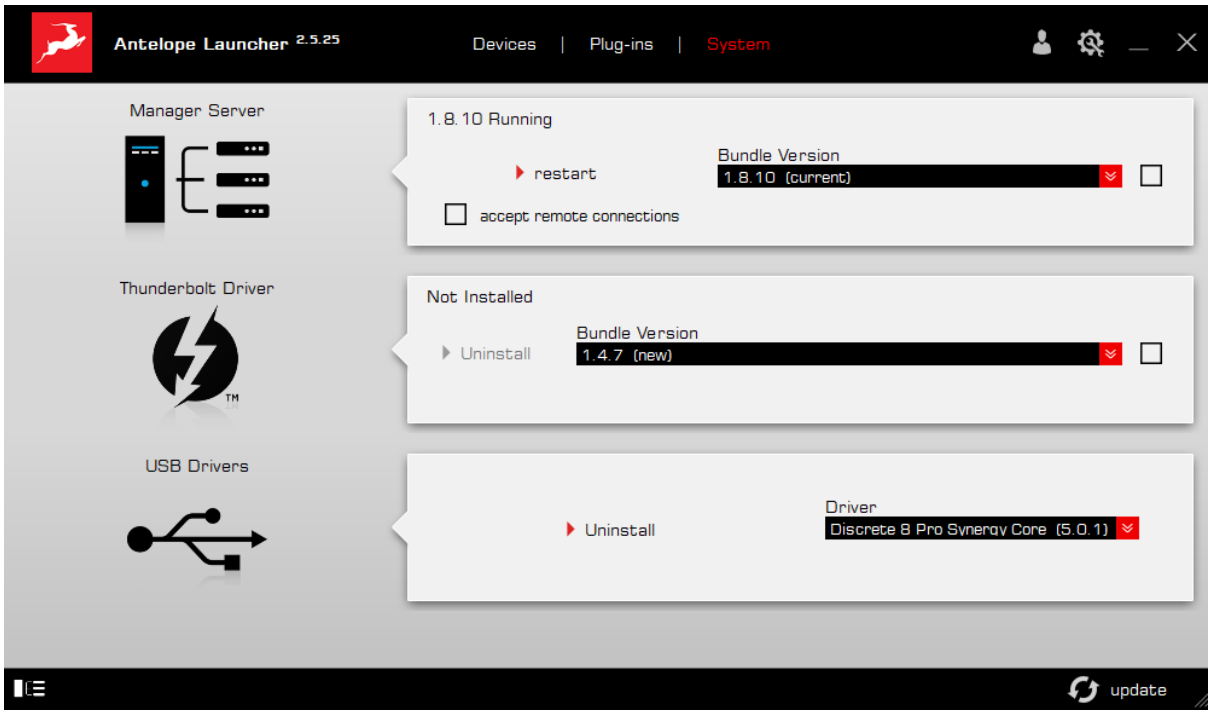



このセクションでは、ネイティブマイクエミュレーションや AFX2DAW などの Antelope Audio ソフトウェアのインストール、アップデート、アンインストールを行います。

デフォルトでは、Bundle Version のドロップダウンメニューには各製品で利用可能な最新のソフトウェアバンドルが表示されます。メニューをクリックすると、現在インストールされているソフトウェアバンドルのバージョンが表示され、古いバージョンにロールバックすることができます。

インストールされているソフトウェアのバージョンを更新または変更するには、希望するバンドルバージョンを選択し、ドロップダウンメニューの横にあるチェックマークをクリックして、右下の「Update」ボタンをクリックします。

## 'System'タブ




ここでは以下のことかできます:

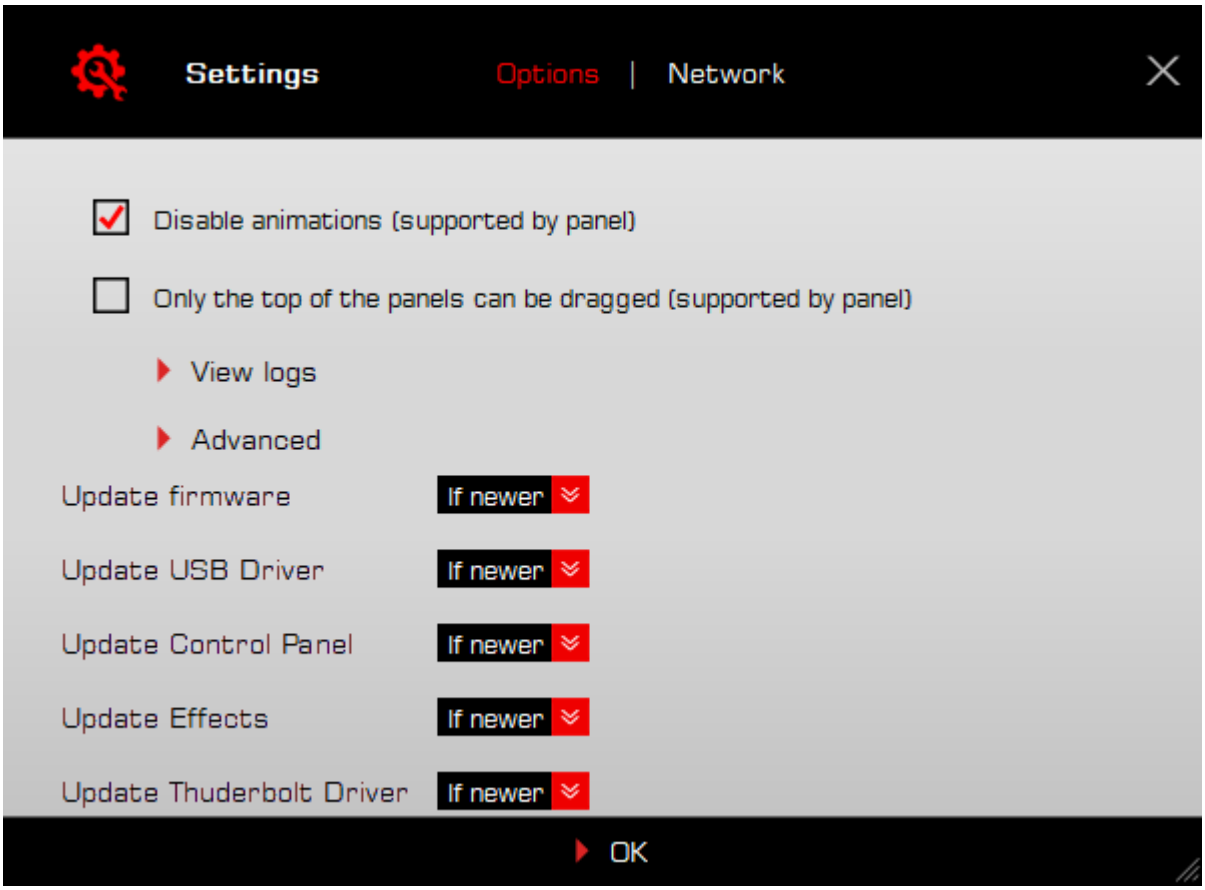
- Manager Server と Thunderbolt™ Driver のバージョンを更新またはロールバックします。ドロップダウンメニューからご希望のバンドルバージョンを選択し、チェックマークをクリックして、右下の「Update」ボタンをクリックします。
- Manager Server を再起動し、ネットワーク上の他のコンピュータからのリモート接続を有効/無効にできます。
- Unified Driver（macOS の場合）、あるいは Thunderbolt™ドライバ（Windows の場合）をインストールします。ドロップダウンメニューから Bundle Version を選択し、チェックマークをクリックして「Update」ボタンをクリックします。
- Unified Driver（macOS の場合）、あるいは Thunderbolt™ドライバ（Windows の場合）、または USB ドライバをアンインストールできます。

## Login ボタン

Antelope Audio のユーザー名とパスワードをクリックして入力し、「Login」をクリックします。Antelope Audio のアカウントをお持ちでない方は、「Register」をクリックし、画面上の指示に従ってください。

## Settings ボタン

クリックすると「Settings」画面が表示されます。




ここでは以下のことかできます:

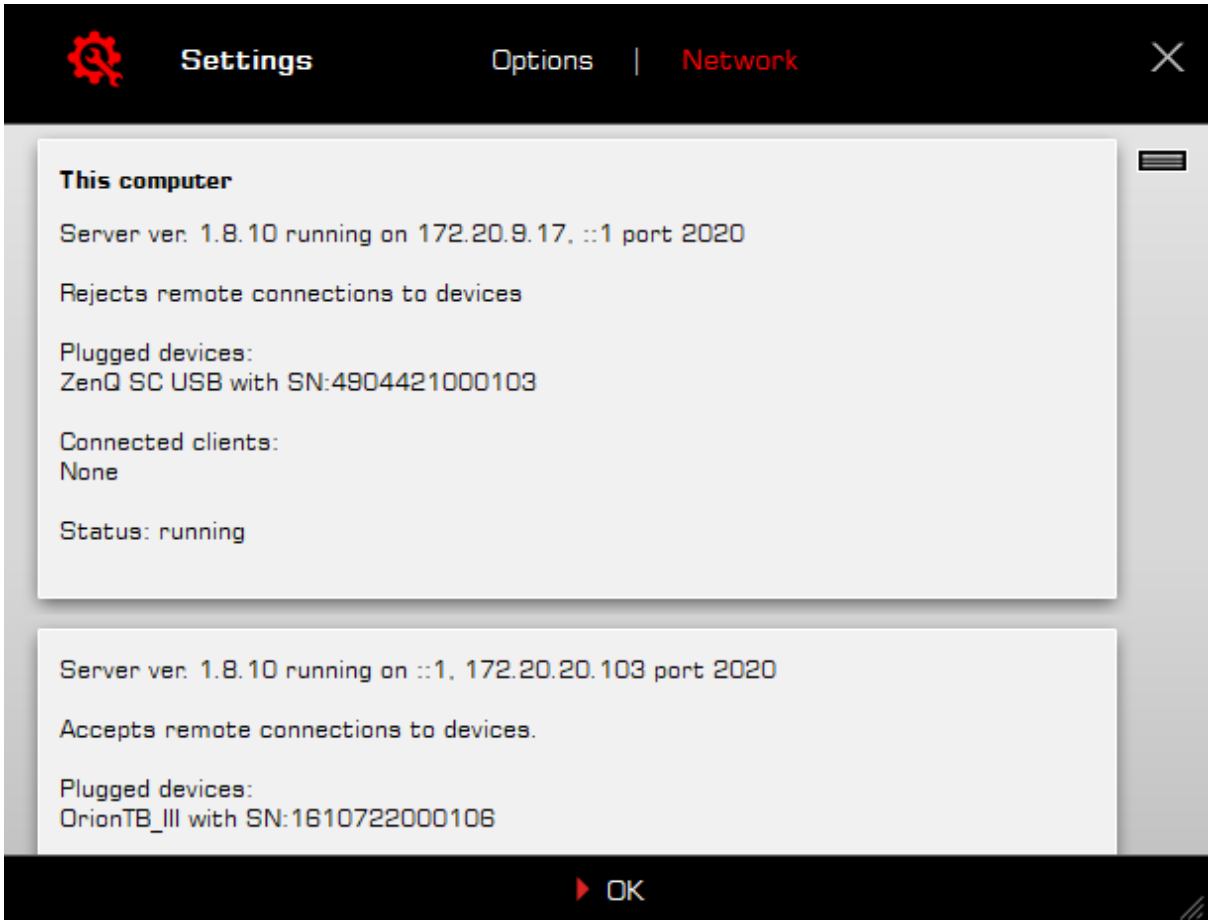
「View Logs」をクリックすると、アクティビティログの表示、保存、および Antelope Audio カスタマーサポートへの送信ができます。

「Advanced」をクリックして、以下の各項目の自動更新を有効または無効にします。

- Device firmware
- USB Driver
- Control Panel
- Effects
- Thunderbolt　driver

ドロップダウンメニューで選択し、「OK」をクリックしてください。

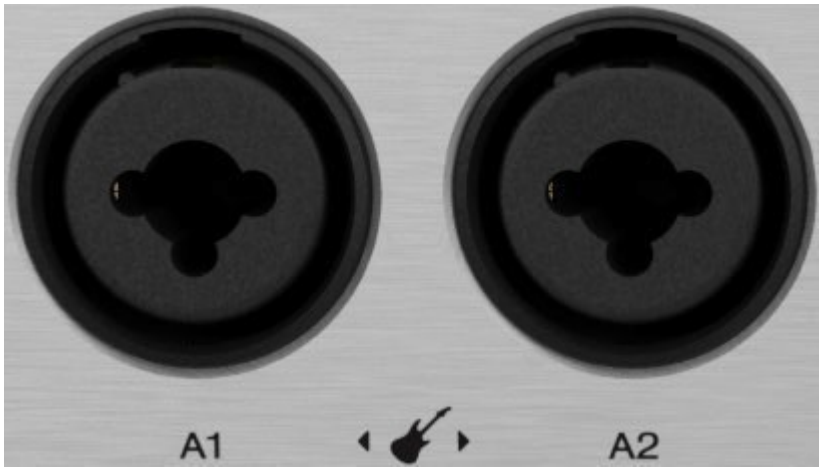
「Network」をクリックすると、ネットワークの状態やログが表示されます。



# 4.0 フロントパネル解説

*左から右へ説明*

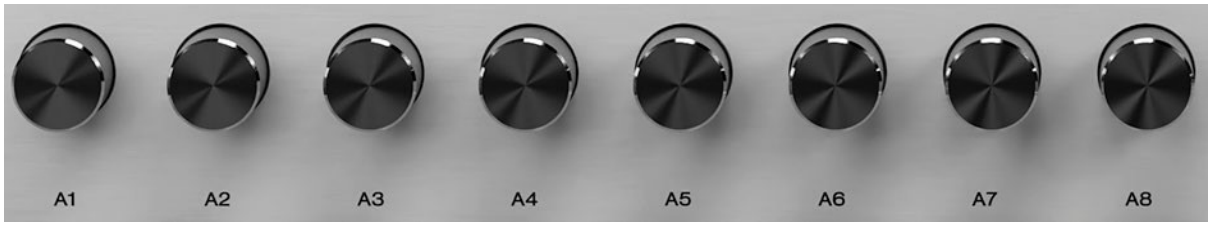
## Mic/combo Inputs A1 - A2




2 つの マイク/ line / Hi-Z コンボ XLR コネクター

**重要**: ラインレベルを入力するときは必ず TS、または TRS コネクタで接続してください。

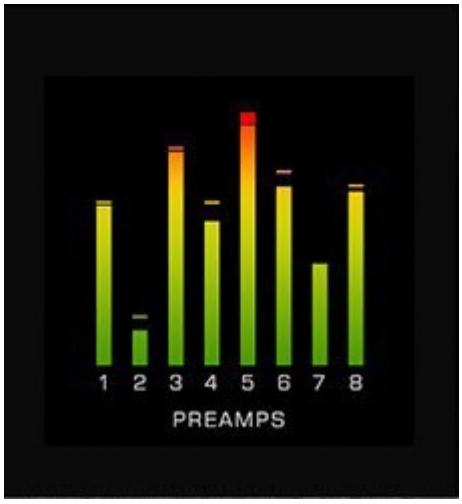
## Gain Knobs A1 - A8




8 つのコンボインプットのゲイン調整ノブです。回して入力ゲインを調整します。

入力メニューがアクティブな状態で、一番下のファンクションボタンを押すと、入力モード（Hi-Z/Mic/Line）が切り替わります。Mic モード選択時に、下側の Function ボタンを押し続けることで 48V の ON/OFF が切り替えられます。

## Display




ピークメーター、コントロールメニュー、システムメニュー、ファームウェアアップデートの進捗状況などを表示します。

## Function Buttons

3 つのファンクションボタンは異なる機能を提供します:

Top Button

• ヘッドフォン出力 1 (HP1) をミュートまたは解除します。

• 長押ししてシステムメニューに入ります。（セクション 3.1 をご参照）

Middle Button

• 押すと、シンクソースやデバイスのサンプルレートなどの情報が表示されます。
• もう一度押すと、コンボ入力1〜4のゲイン、シグナルタイプ、48V 電源の設定を表示します。
• もう一度押すと、コンボ入力5〜8のゲイン、シグナルタイプ、48V 電源設定を表示します。
• もう一度押すと終了します。

Bottom Button

• 押すと、ヘッドフォン出力2（HP2）を ミュートまたはミュート解除します。
• 長押しするとコントロールメニューに入ります。（セクション 3.2 をご参照）

## Main Rotary Control

ゲインとバリューを正確に調整するための大型のステップアッテネーター。

- 回すと、現在選択されている出力の音量を調整します。ボリューム設定メーターが表示されるとき、Top Function Button を押すと MONITOR 1 と MONITOR 2 を切り替え、Bottom Function Button を押して選択されている MONITOR 出力と LINE OUT を切り替えます。
- クリックすると、現在選択している出力をミュートまたはミュート解除します。
- 長押しすると、現在選択している出力を DIM、または DIM 解除します。

## Talkback microphone and TBK Button

トークバックを起動します。内蔵マイクに話しかけます。メインロータリーコントロールでゲインを調整します。TBK をもう一度押して終了します。

## Headphone outputs H1 - H2 with gain adjustment knobs

1/4 インチ TRS 端子に 2 つのステレオヘッドフォン出力。（隣接するゲイン調整ノブ付き）

# 3.1 システムメニュー

システムメニューには、以下のサブメニューがあります。メインロータリーコントロールを回して、項目をスクロールして選択します。メインロータリーコントロールを押し込んで、入力または確認します。いずれかの機能ボタンを押して終了します。

**Device Info**

デバイスのシリアル番号、ハードウェアおよびファームウェアのリビジョンを表示します。カスタマーサポートによるトラブルシューティングに役立ちます。

**Comm. Interface**

インターフェイスのパソコン説読モードを選択することができます。４つの選択肢があります。

- Fixed USB – USB のみの接続が可能となります。
- Fixed TB – Thunderbolt™のみの接続が可能となります。
- Preferred USB（デフォルト） - デバイスが自動的に接続を発見します。USB と Thunderbolt™が同時に接続の場合、USB 接続の方が有効となります。
- Preferred TB - デバイスが自動的に接続を発見します。USB と Thunderbolt™が同時に接続の場合、Thunderbolt™接続の方が有効となります。

**Scr Saver Time**

スクリーンセーバーが表示されるまでにかかる時間を選択します。 快適な最短の設定をお勧めします。

**Scr Save Style**

スクリーンセーバーのタイプを選択します。インターフェースが定期的に長時間動作している場合は、「Black」 をお勧めします。 これにより、ディスプレイの焼き付きを防止することができます。

**Factory Reset**

工場出荷時にリセットを行います。プリセットや設定はすべて失われますのでご注意ください。

**Talkback HP1**

ヘッドフォン出力 1 (HP1) にトークバックを送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

**Talkback HP2**

ヘッドフォン出力 2 (HP2) にトークバックを送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

**Talkback MON**

トークバックをモニター出力 1（MON）に送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

**Talkback MON2**

モニター出力 2（MON2）にトークバックを送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

Note: モニター出力 2 と REAMP 出力 R1 - R2 は同じジャックにあります。コントロールメニューまたはソフトウェアのコントロールパネルから「Monitor 2」と「REAMP」モードを切り替えます。

**Talkback Mic**

トークバックマイクの入力を選択します。メインロータリーコントロールを押してメニューに入ります。メインロータリーを回して、内蔵トークバックマイク、またはマイク／コンボ入力 A1 ～ A8 に接続されているマイクを選択します。もう一度メインロータリーコントロールを押して確定します。

## 3.2 コントロールメニュー

コントロールメニューには、以下のサブメニューがあります。メインロータリーコントロールを回して、項目を選択したり、値を調整したりします。メインロータリーコントロールを押して、入力または確認します。いずれかのファンクションボタンを押して終了します。

### Power OFF

メインロータリーコントロールを押して電源を切ります。

### Clock Source

次のオプションからクロックソースを選択できます。

- Internal
- ADAT (2x, 4x)
- S/PDIF
- USB (USB モードは、Discrete 8 Pro Synergy Core の内部クロックを使用します。)

### Sample Rate

デバイスのサンプルレートを選択します。 選択がオペレーティングシステムと DAW のサンプルレートと一致することを確認してください。

### Peak Meter

ディスプレイ上のピークメーターのオーディオソースを選択します。最大 32 のオーディオチャンネルが表示されます。

### Monitor Trim

モニター出力信号を調整します。（dBu 単位）

### Line Out Trim

ライン出力信号トリムを調整します。（dBu 単位）

### Monitor 2 / REAMP

アナログ出力を「Monitor Output 2」と「REAMP Outputs」モードに切り替えます。どちらのモードでも、出力は技術的には外部オーディオ機器のセンドとして機能します。しかし、これは本来のセンド目的ではありませんので、結果は異なる場合があります。

**Brightness**

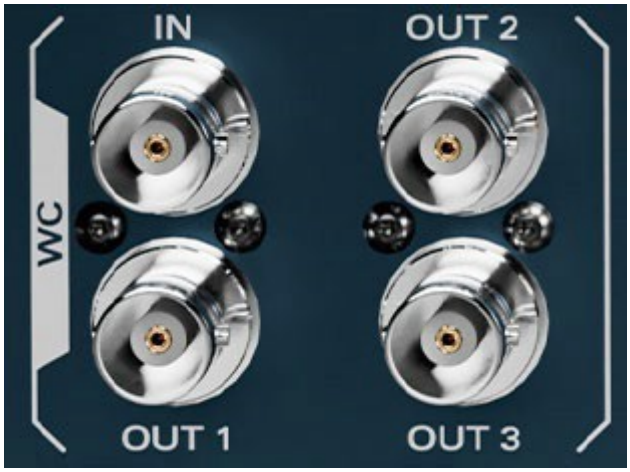
ディスプレイを暗くするか、明るくします。

# 5.0 リアパネル解説

## 18V/20W Power Input

Antelope Audio 電源との併用に限ります。

## Word Clock I/O




1つのワードクロック入力と 3 つのワードクロック出力が BNC コネクタにあります。

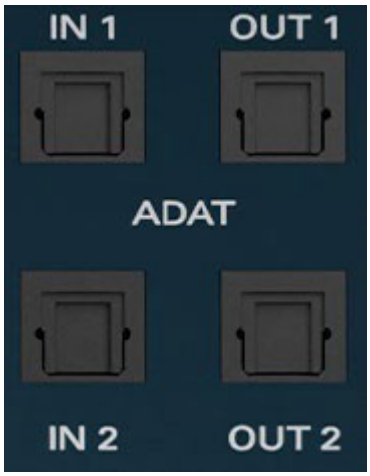
## S/PDIF I/O

同軸 RCA ケーブルを介して 2 チャンネルの S/PDIF デジタルオーディオを送受信します。

## Footswitch Input

フットスイッチを接続して、トークバックやDIMファンクションコントロールできます。
この端子にはシングルフットスイッチ（1/4" TS）、またはデュアルフットスイッチを接続できます。

## ADAT I/O




2入力2 出力で最大16 の I/O オーディオ・チャンネルを Toslink 光ファイバ・ケーブルで伝送します。ADAT は S/MUX で動作します。標準的な ADAT オーディオ制限が適用されます。

- Up to 16 I/O channels of 24-bit, 48kHz audio
- Up to 8 I/O channels of 24-bit, 96kHz audio (over S/MUX)
- Up to 4 I/O channels of 24-bit, 192kHz audio (over S/MUX)
- All ADAT audio is transmitted in 24-bit resolution

Note: ADAT の接続・切断時に機器の電源を切る必要はありません。ただし、接続時に大きな信号スパイクが発生しますので、受信機器はミュートにしてください。

## Thunderbolt™ 3 port

コンピュータ接続用の Thunderbolt™ 3 ポートです。Thunderbolt™ 2 接続には、サードパーティ製の TB3-TB2 アダプタと対応するケーブルが必要です。Apple 認定のケーブルとアダプタを使用することをお勧めします。

## USB Port

コンピュータ接続用の USB 2.0 Type-B ポート。

## D-SUB 25-pin Line Outputs

アナログオーディオ 8 チャンネルを搭載した DB-25 ブレークアウトケーブルコネクタ。

TASCAM 標準のピンレイアウトに対応。DC カップリング対応。

## Monitor Outputs L/R

モニタースピーカー出力（1/4 インチジャック）。これらの出力は、システムの中で最も高いダイナミックレンジを誇っています。

## REAMP Outputs R1 - R2

1/4 インチのモノラル・ジャックにインストゥルメント・レベルの出力を搭載。ギターアンプなど DI トラックのリエンピングに適した機器との併用を想定して設計されています。

**重要!** これらの出力は、2 組目のモニター出力としても機能します。デバイスのコントロールメニューまたはソフトウェアのコントロールパネルからモニターと REAMP モードを切り替えます。

## Mic/Line Inputs

6 つのマイク/ライン入力（コンボ XLR コネクタ）。A3 から A8 のラベルが付いています。これらの入力では Hi-Z は使用できません。

**注意：**ラインレベルのソースは TS/TRS ケーブルで接続してください。

# 6.0 ソフトウェアコントロールパネル

ソフトウェアのコントロールパネルへようこそ。

コントロールパネルは、フロントパネルコントロールの単なる代わりではなく、インターフェイスの機能の各側面に簡単かつ包括的にアクセスすることができます。これには、セッティング、入力切替、シグナルルーティング、内部ミキサー、エフェクト、モニタリング、メーター、プリセットが含まれます。

Discrete 8 Pro は、あらゆる信号ソースとあらゆる出力先のルーティングを可能にし、複雑なセッションのシナリオでさえも現実のものにします。このフレキシビリティーは、フルバーチャルパッチベイまたはオリジナル Discrete インターフェイスのプルダウンメニュー式のシンプルなルーティングビューの両方からアクセスすることができます。

Quick Start セクションを参考に、すぐに使い始めることもできますが、ぜひこの章全体を読んで理解を深めていただいてからバーチャル・ノブやフェーダーに触れてみてください。

# 6.1 Quick Start

まず、コントロールパネルで実行される重要なタスクの簡単な例から始めましょう。

**メモ:** これらの例は、以下のタスクを達成する 「正しい」 または 「唯一の」 方法では決してありません。 それらはいくつかの基本的なロジックを示しているだけで、初心者ユーザーが最も頻繁に遭遇する 「最初のつまずき」 に対する解決方法を提供します。

## コンピュータからのプレイバック

Discrete 8 Pro Synergy Core を再生デバイスとして使用する場合、コンピュータからのオーディオ信号は、COMPUTER PLAY チャンネルで表されます。ほとんどの場合、DAW やコンピュータのサウンドは、COMPUTER PLAY 1 と COMPUTER PLAY 2 に対応する出力 1-2 で再生されます。

COMPUTER PLAY 1 と 2 を内部ミキサー（4 つあるいずれか）にルーティングし、パンニングをハードレフトとハードライトに設定し、適切なステレオイメージを得ることができます。その後、MIXER OUT チャンネルをヘッドフォン / モニターアウトにルーティングしてください。COMPUTER PLAY 1 と 2 を直接ヘッドフォン / モニターの Left と Right にルーティングする方法もあります。

## ヘッドフォンでオーディオをモニターする

1. 「PREAMPS」 セクションで、左端のプリアンプに移動し、音量インジケーターの右側にある中央のシンボルをクリックしてください。

- マイクを接続した場合、マイクアイコンを選択します。 コンデンサーの場合、ゲインノブの下のボタンから48V ファンタム電源を有効にします。
- ギターまたはベースを接続した場合のギターのアイコンを選択。
- ラインレベルのソース（シンセ、サンプラー、プレーヤーなど）を接続した場合のジャックアイコンを選択。

2. MIXER タブで、[PREAMP 1]が 4 つのミキサーのどれかのチャンネルソースとして選択されていることを確認します。この例では、[MIXER 1]を使用し、ミキサーの 1 番目のチャンネルにソースを選択することにします。

ヘッドホン出力の入力を聞くには、ソフトウェアパネルの下部にある[HEADPHONE 1]または[HEADPHONE 2]タブを開き、ヘッドホン出力のソースとして [MIXER 1]の 2 つのチャンネルを選択します。

ソースの選択は、大きなボリューム回転ノブの左側にあり、左右のモノラル出力に対応する L-R と表示されています。

[L]をクリックし、左チャンネルに[MIXER 1 OUT – 1]を選択します。[R]をクリックし、右チャンネルの[MIXER 1 OUT – 2]を選択します。これで、1 台目のミキサーのステレオ出力がヘッドフォンに送られます。

インプットからのオーディオがヘッドフォンで聴こえるようになっています。[PREAMPS]セクションの Gain ノブで入力ゲインを、ミキサーのチャンネルフェーダーまたは[HEADPHONE 1]ノブで出力ボリュームを調整します。

また、HP の出力ボリュームはフロントパネルコントロールからも調整することができます。

## Synergy Core FX を入力オーディオに適用する

[AFX]タブを開き、Synergy Core エフェクト画面にアクセスします。入力セレクタから、使用可能な 16 チャンネルのオーディオ入力を選択します。入力セレクタの下の AFX 領域をクリックすると、対応する Synergy Core FX ラックウィンドウが起動します。[ADD NEW EFFECT] ボタンをクリックして、エフェクトチェーンの構築とエフェクト設定の調整を開始します。完了したらウィンドウを閉じます。FX Rack の詳細については、このマニュアルの後半に記載されています。

## バーチャルアンプとキャビネットを使用してギターを演奏する

１．ギターを A1 に接続し、Discrete 8 Pro Synergy Core の[Monitor LR]にスピーカーを接続します。

2. コントロールパネルを開き、[PREAMPS] の一番左の領域に移動します。エレキギターのシンボルが表示されるまで、音量インジケータの右側にある中央のシンボルをクリックします。

3. [AFX]タブを開き、[AFX 1]チャンネルで入力ソース [PREAMP]>[PREAMP 1] を選択します。この例では、最初のエフェクトラックを使用することにします。

4. 入力セレクターの下の部分をクリックし、Synergy Core FX Rack を起動します。[ADD NEW EFFECT]をクリックし、メニューからギターアンプとキャビネットを選択します。どこから手をつけていいかわからない場合は、[Modern (US)]アンプと[Modern 4 x 12]キャビネットの組み合わせで、素晴らしいモダンロック/メタルリグを作ることができます。

キャビネット・シミュレーターの詳細な概要については、マニュアルの後半に掲載しています。個々のアンプ・モデルについてはこちらで、キャビネットについてはこちらで詳しく説明しています。（英語のみ）

5. ミキサーの空いているチャンネルで、ソースとして[AFX OUT 1]を選択します。この例では、[MIXER 1]の最初のチャンネルを使用します。その後、コントロールパネル下部の[MONITOR 1]タブを開き、[MIXER 1]の 2 つの出力を左右のスピーカーに選択します。パンニングとボリュームはミキサーの設定で、モニター出力のボリュームは[MONITOR 1]タブのボリュームノブで好みに合わせて調整します。

## マイクエミュレーションを使用し、ヘッドフォンでモニターする

フロントパネルにある HP1 にヘッドフォンを接続します。プリアンプ/コンボ・インプットに Antelope Audio Edge または Verge モデリングマイクを接続します。この例では Edge Duo を使用しており、インプット A1 と A2 に接続します。

1. コントロールパネルを開き、[PREAMPS]の行から一番左のプリアンプに向かいます。ボリュームインジケータの右側にある真ん中のマークを、[mic]のマークまでクリックします。次に、[歯車]マークをクリックします。これで、マイクエミュレーションウィンドウが起動します。ダイヤルで Edge Duo を選択します。

2. ゲインノブでマイクのゲインを調整します。プリアンプ A1 と A2 がリンクされ、両者の設定が同じになっていることに注意してください。

3. 任意のミキサー（この例では[MIXER 1]）に移動し、[EMU MIC 1]と[EMU MIC 2]を最初の 2 つのソース、または他のミキサーチャンネルに選択します。

4. コントロールパネル下部の [HEADPHONES 1]タブを開き、最初のミキサーの出力が左右のチャンネルのドロップダウンメニューから、それぞれ [MIXER 1 OUT 1]と[MIXER 1 OUT 2]に選択されていることを確認します。

この時点で、ヘッドホンからマイク音声が聞こえているはずです。HEADPHONES 1' のボリュームノブ、またはチャンネル 1 と 2 のミックスフェーダーで、出力音量を調節してください。

### DAW へ録音する

Discrete 8 Pro Synergy Core を使ったレコーディングは非常に簡単です。まず、インターフェイスが DAW のメイン入出力デバイスとして選択されていることを確認します。次に、コントロールパネルを開き、[DAW]をクリックします。下記に注意してください。
DAW への入力 1ch – 32ch は、「TO DAW」行の「Record 1 - 32」と書かれた 32 チャンネルに対応しています。インプットセレクターを使用して、オーディオソースを選択します。次に、DAW で新しいトラックを作成し、同じ番号の入力を割り当てます（例：Record 1 = Input 1）。

同様に、DAW の出力 1ch – 32ch は、[FROM DAW]行の[PLAY 1-32]というラベルの付いたチャンネルになります。これらのチャンネルは、[MIXERS]、[DIGITAL OUTS]、[LINE OUTS]、[AFX]タブ内の入力セレクターからオーディオソースとして選択することができます。
また、[ROUTING]タブからヴァーチャルパッチベイのルーティングマトリックスビューからも設定可能です。可能性は無限大です。

NOTE: Discrete 8 Pro Synergy Core は、Thunderbolt 経由で 32ch 分の同時プレイ/レコーディング、USB 経由では 24ch 分の同時プレイ/レコーディングを提供します。

## 6.2 マウス・キーボードショットカット

次の機能は、コントロールパネルのマウスとキーボードのショートカットからアクセスできます。

- デフォルト値に戻す（すべてのノブとフェーダー）：
  ノブまたはフェーダーをダブルクリックします。
- テキストラベルを変更し、ゲイン値を手動で入力します：
  テキストラベル/ゲイン値をダブルクリックします。

- パラメーター値を少しずつ調整します（すべてのノブとフェーダー）

Ctrl（Windows）/ Command（macOS）を押しながらドラッグします。

- ピークメーターをクリックしてクリアします。

# 6.3 Main View

コントロールパネルは、上から下に次のように構成されています。

## 6.3.1 Function Strip 1

### On/Off Button

クリックするとハードウェアユニットの電源のオン/オフができます。

### Device Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、接続されている Antelope Audio デバイスを切り替えます。Antelope Launcher からデバイスごとに個別のコントロールパネルインスタンスを起動もできます。

### Default panel size, Minimize & Close Buttons

コントロールパネルのサイズをデフォルトに戻したり、コントロールパネルアプリケーションを最小化したり、閉じたりすることができます。

### 6.3.2 Function Strip 2

#### Clock Source Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、クロックソースを選択します。

- Internal
- ADAT (2x, 4x)
- S/PDIF
- USB。USB モードでは、Discrete 8 Pro Synergy Core は内部クロックを使用しますが、USB で DAW とロックしている本機は、コンピュータのオーディオに設定されたサンプルレート値を内部クロックで動作します。

#### Sample Rate Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、デバイスのサンプルレートを選択します。選択がオペレーティングシステムと DAW のサンプルレートと一致することを確認してください。

#### Lock Indicator

Discrete 8 Pro Synergy Core が外部デバイス（ADAT など）にロックされているときに点灯します。

## Session Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、セッションをロードします。セッションファイル（* .as）を保存およびロードするには、隣接する 「SAVE」 および 「LOAD」 ボタンを使用します。

「セッション」 は、コントロールパネル構成全体の完全な 「スナップショット」 です。セッションを保存するときに、保存するコンポーネントを正確に選択し、[名前を付けて保存(Save As) ] ボタンからセッションファイルを保存して共有することができます。セッションをロードするとき、セッションファイル（* .as）のコンピューターを参照し、ロードするコンポーネントを選択できます。

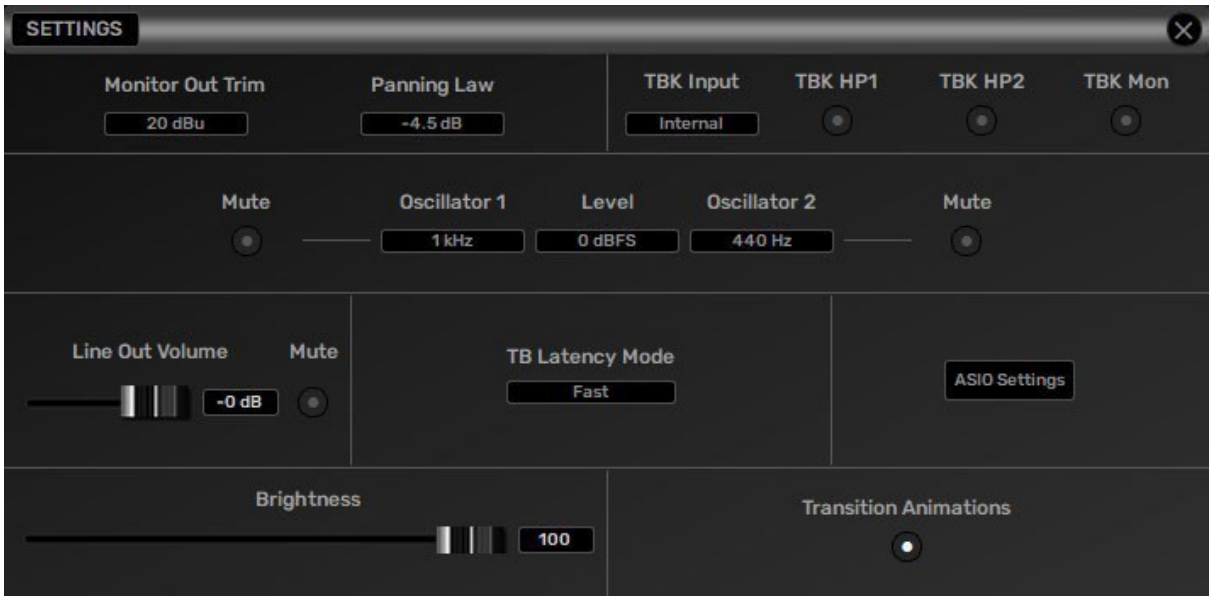
## Talkback Button

クリックすると、トークバックをオン・オフに切り替えられます。

## Settings Button

クリックすると、設定メニューに入ります。

設定メニューは、以下にて説明します。




注意：ASIO Settings ボタンは、Windows のみで表示されます。

| | |
|---|---|
| Monitor Out Trim | モニター出力の信号トリム量（dBu 単位）をドロップダウンメニューから選択します。 |
| Panning Law | パニングロー補正を 0dB（なし）～-4.5dB の間でドロップダウンメニューから指定することができます。 |
| TBK Input | トークバック入力が内蔵マイクからマイク/ライン入力 A1～A8 に接続されたマイクに変更されます。 |
| TBK HP1 | トークバック入力がヘッドホン出力 1（HP1）に送られます。 |

| | |
|---|---|
| TBK HP2 | トークバック入力がヘッドホン出力 2（HP2）に送られます。 |
| TBK Mon | トークバック入力をモニター出力に送るときにクリックします。 |
| Mute | Oscillator 1 出力をミュートします。 |
| Oscillator 1 | Oscillator 1 の信号の周波数をドロップダウンメニューから選択します。 |
| Level | Oscillator 1，2 の出力レベル（dBFS）を選択します。 |
| Oscillator 2 | Oscillator 2 の信号の周波数をドロップダウンメニューから選択します。 |
| Mute | Oscillator 2 出力をミュートします。 |
| Line Out Volume | フェーダーでライン出力の音量（dB 単位）を調整します。隣接する[Mute]ボタンをクリックすると、ライン出力のミュートとミュート解除ができます。 |
| Brightness | フェーダーで本体ディスプレイの明るさを調整します。 |
| TB Latency Mode | ドロップダウンメニューから Thunderbolt Latency モードを選択します。オーディオの不具合や CPU のオーバーロードなどが発生した場合は、さまざまなモードを試してみてください。 |

| | |
|---|---|
| ASIO Settings | Windows ユーザーの場合 - クリックすると Discrete 8 Pro Synergy Core USB ASIO Control Panel が起動します。[Buffer Settings]タブでは、レイテンシーとパフォーマンスのバランスを最適化するための ASIO Buffer Size を選択することができます。 |

## 6.3.3 PREAMPS Strip

左端に「PREAMPS」と表示されています。Discrete 8 Pro Synergy Core の A1 - A8 のラベルが貼られた 8 つのマイク / コンボイン プットのコントロールが含まれています。各入力には以下のコントロールがあります。

**Gain Knob**

ノブをクリックしてドラッグするか、中央のテキストラベルをダブルクリックし、キーボードを使用して入力ゲインを調整します。 ゲイン範囲は次のとおりです。

- Mic: -12dB - 64dB
- Line: -6dB - 20dB
- Hi-Z (inputs A1 and A2): 0dB - 40dB

**48V Button (in mic mode)**

コンデンサーマイクの 48V ファンタム電源を有効または無効にできます。

**Peak Meter**

入力ゲインを視覚化します。

**Link Button ('stereo' symbol)**

クリックすると、隣接する入力を 2 つのペアでリンクします。1 つのチャンネルに加えられた変更は、隣接するチャンネルにも同じ変更が適用されます。

**Input Type Button ('mic' symbol)**

マイク、ライン、Hi-Z（入力A1～A2）のいずれかの入力をクリックして切り替えることができます。

**Mic Emulations Button ('cog' symbol, when in mic mode)**

Edge、または Verge をお持ちであれば、クリックして「Mic Emulations」ウィンドウを開きます。詳細については、各マイクの取扱説明書をご参照ください。

## 6.3.4. Input Selectors

入力セレクターは各アナログおよびデジタル出力チャンネルの上にあります。入力セレクターをクリックして、関連する出力チャンネルに割り当てられたオーディオ入力を選択します。次の選択肢があります。

| | |
|---|---|
| PREAMP 1 - 8 | 8 つのマイク/コンボ入力です。 |
| EMU MIC 1 - 8 | Edge & Verge Mic Emulation が適用される 8 つのマイク/コンボ入力です。これを設定することで「ドライ」と「マイクエミュレーション」の音声を異なるチャンネルで録音するなどの調整ができます。 |

| | |
|---|---|
| COMPUTER PLAY 1 - 32 | これらの入力は、DAW からの出力 1〜32ch を表します。<br>DAW の出力 1〜32ch にオーディオトラックをアサインし、同じ番号の COMPUTER PLAY インプットを選択します。こうすることで、DAW のオーディオを内部ミキサー、アナログ、デジタル出力にルーティングし、Synergy Core FX を適用することができます。 |
| ADAT IN 1 - 16 | ADAT オーディオ入力 1〜16ch。 |
| S/PDIF IN 1 - 2 | S/PDIF ステレオデジタルオーディオを 2 チャンネル受信する。 |
| AFX OUT 1 – 16 | AFX チャンネルから出力される、処理された信号です。 |
| MIXER 1 - 4 OUT | 各 32ch ミキサーの出力信号の出力です。<br>各出力は左右のステレオ出力です（例：MIXER 1 OUT 1、MIXER 1 OUT 2）。 |
| MUTE M | チャンネルミュートです。 |
| OSCILLATOR 1 - 2 | Oscillator1 と 2 からの信号です。 |

### 6.3.5 Main tabs

コントロールパネルのメインタブでは、主要機能にアクセスすることができます。

- MIXERS：4 つの内部ミキサーにアクセスすることができます。

- DIGITAL OUTS - ADAT と S/PDIF 出力に信号をルーティングすることができます。
- LINE OUTS - D-sub からライン出力する信号をルーティングし、そのボリュームを調整することができます。
- DAW - DAW にレコーディングするための信号をルーティングします。

- AFX - 各チャンネルストリップにエフェクトを追加し、処理したいソースを選択します。
- ROUTING - ルーティング・マトリックスにアクセスできます。
- AURAVERB - リバーブエフェクト Auraverb の設定にアクセスすることができます。
- モニタリング・コントロール - モニターとヘッドフォン出力のルーティングとボリューム調整にアクセスできます。

各タブの詳細な説明については、このまま読み進めてください。

### 6.3.5.1 MIXERS

このタブでは、内臓された 4 つある 32ch バーチャルミキサーにアクセスすることができます。

インプットセレクターを使用し、各チャンネルにオーディオソースをアサインします。

各ミキサーは完全に独立しているので、各ミキサー毎に異なるインプットを設定することが可能です。各チャンネルストリップには、以下の設定があります。

- Pan ノブ -30（Hard Left） - 30（Hard Right）の間の値です。
- 信号の音量を調整するボリュームフェーダー
- ピークメーター：-60〜0dB の範囲でリアルタイムに信号を dB 表示します。
- ミキサー内の他のチャンネルをミュートし、ソロにしたチャンネルのみを聴くことができる Solo ボタンです。
- Mute ボタン：選択したチャンネルをミュートします。

- Link ボタン（1 ペアにつき 1 つ使用可能）は隣のチャンネルストリップとすべてのコントロールをリンクし、両方のチャンネルの設定を一緒に調整することができます。これは、左右の 2 つのチャンネルを使用するステレオ信号の場合に多く使用されます。

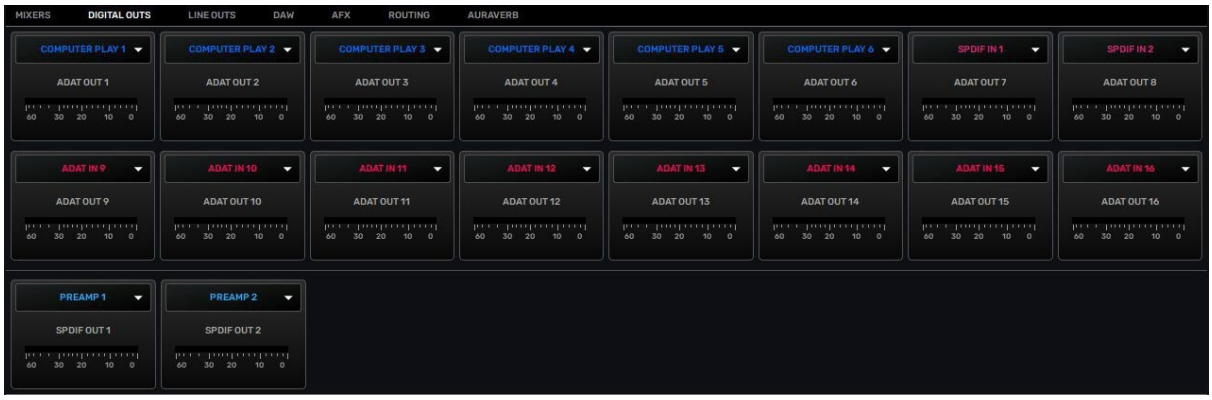
### COMPACT＆WIDE ビュー - 8/32 チャンネル


ミキサーの右上には、8 チャンネルと 32 チャンネルの切り替えスイッチがあり、ミキサーの表示を変更することができます。8 チャンネルモードでは、ミキサーは 8 つの拡大されたチャンネルストリップにフィットします。32 チャンネルモードでは、すべての 32 チャンネルが表示されます。

### Scroll Bar

チャンネルストリップのすぐ下にはスクロールバーがあり、拡張ビューを使用せずに、ミキサー内の利用可能な 32 チャンネルすべてをスクロールすることができます。このスクロールは、8 チャンネルモード表示でのみ利用可能です。

## 6.3.5.2 DIGITAL OUTS




このタブでは、利用可能なすべてのオーディオ入力を ADAT および S/PDIF デジタル出力にルーティングできます。各 ADAT および S/PDIF 出力チャンネルには、専用の入力セレクターとピークメーターがあります。

## 6.3.5.3 LINE OUTS

このタブでは、すべてのオーディオソースをライン出力にルーティングできます。
各ライン出力には、専用の入力セレクター、ピークメーター、およびトリムノブ（14dB～20dB）があります。LINK ボタンにより、すべてのチャンネルをリンクし、トリムを同時に調整できます。

## 6.3.5.4 DAW

このタブでは、DAW に入出力されるオーディオ信号を表示します。このセクションの最も重要な点は、DAW 内で録音するために DAW へ送信する信号ソースを選択することです。
TO DAW セクションで、この機能を管理します。

### TO DAW

このセクションには、DAW への INPUT チャンネルを表す合計 32ch のチャンネルストリップが含まれます。各チャンネルストリップの上には入力セレクタがあり、DAW 内で録音するために送信する信号ソースを選択することができます。例えば、Discrete の[Preamp 1]に入力された信号を DAW の[INPUT 1]で録音する場合、最初のチャンネルストリップ[Record 1]の入力セレクタで[PREAMP 1]を選択します。[Record 1]=DAW の入力 1 になります。

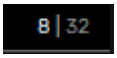
各 Record チャンネルのピークメーターは、DAW に録音されるシグナルをリアルタイムで表示します。

### FROM DAW

このセクションには合計 32ch 分の PLAY チャンネルがあり、DAW 内の出力チャンネルを表します。ピークメーターは、DAW から出力される信号を視覚化します。

COMPUTER PLAY 1-32 は、DAW からのアウトプット 1-32 のオーディオにを意味しています。

DAW のオーディオトラックをアナログとデジタル出力、または Synergy Core FX（AFX タブ）に送る場合、このトラックを出力 1〜32 にアサインし、コントロールパネルに戻って同じ番号の[COMPUTER PLAY]ソースを好きな場所にアサインしてください。[COMPUTER PLAY1]＝DAW からの出力 1 になります。

### COMPACT＆WIDE ビュー - 8/32 チャンネル 


DAW セクションの右上には、8 チャンネルと 32 チャンネルの切り替えスイッチがあり、表示モードを変更することができます。8 チャンネルモードでは、DAW セクションに 8 つの拡大されたチャンネル・ストリップが収まります。

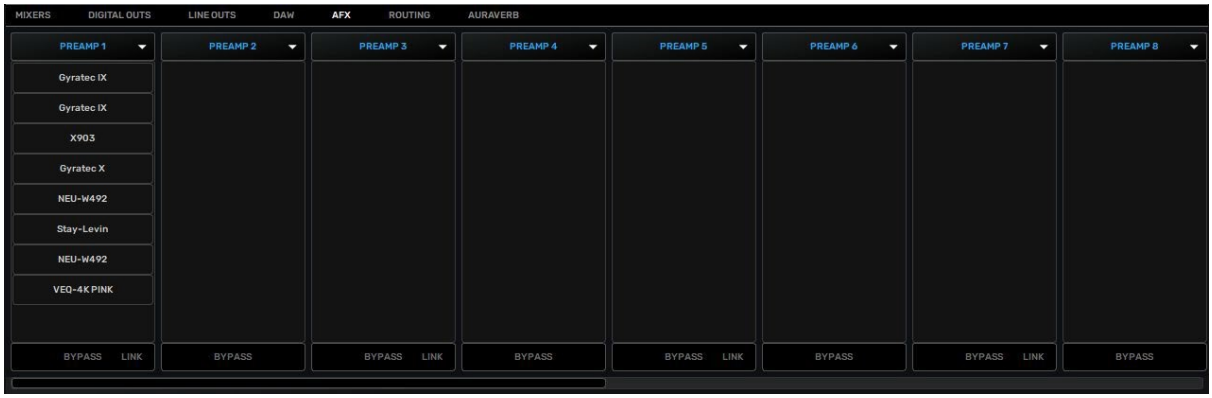
32 チャンネルモードでは、32 チャンネルすべてが DAW セクションに表示されます。

### Scroll Bar

チャンネルストリップのすぐ下にはスクロールバーがあり、拡張ビューを使用せずに、DAW セクションの利用可能な 32 チャンネルすべてをスクロールすることができます。このスクロールは、8 チャンネルモード表示でのみ利用可能です。

**注意：**32 チャンネルは Thunderbolt 経由でのみ利用可能です。USB 接続での利用可能な入出力はそれぞれ 24 チャンネルです。

## 6.3.5.5 AFX



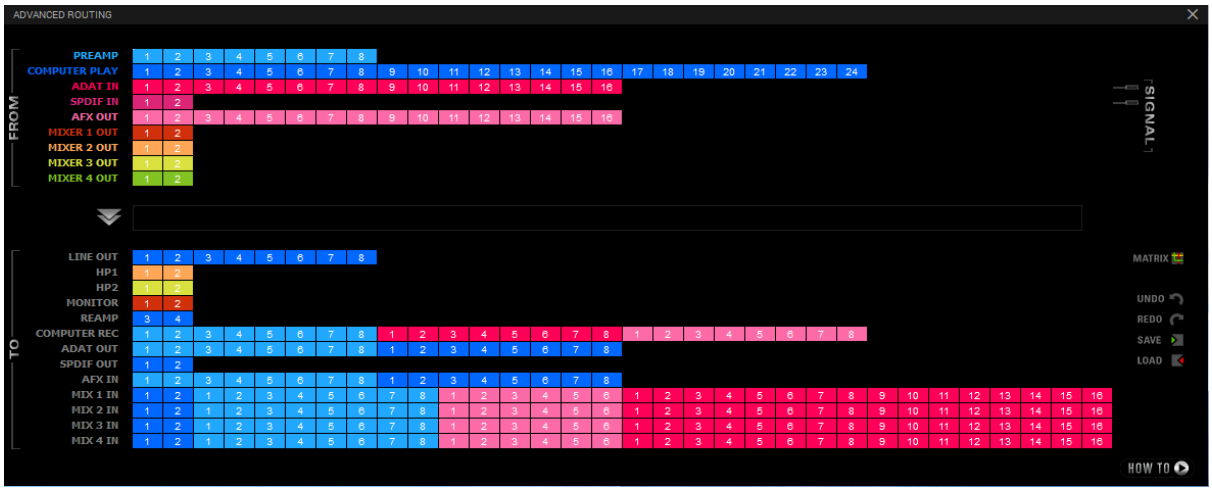

各チャンネルストリップの上部には、エフェクトを掛ける対象ソースを選択する場所があります。ソースをクリックすると、ドロップダウンメニューが表示され、エフェクト処理したい信号を選択することができます（例：PREAMP 1）。
下にはスクロールバーがあり、16ch 分ある AFX チャンネルストリップを簡単にスクロールすることができます。
各ソースの下にある AFX エリア内をクリックすると、FX Rack が開き、Synergy Core FX を設定できます。[BP]ボタンをクリックすると、そのチャンネルに適用されたすべての FX がバイパスされます。[Link]ボタンをクリックすると、隣接するチャンネルをリンクし、エフェクトを複製してステレオエフェクトラックを作成します。

FX Rack はこのようになります。

次の機能がご利用可能です。

- 「SAVE」 および 「LOAD」 ボタンを使用して、FX チェーンを保存および呼び出します。
- [BP ALL] ボタンをクリックして、ラック内のすべての FX をバイパスします。再度クリックして、再度有効にします。
- [DEL ALL] ボタンをクリックして、FX ラックをクリアします。
- 入力ラベルの下のドロップダウンメニューをクリックして、工場出荷時のプリセットをロードします。
- [ADD NEW EFFECT] ボタンをクリックして、Synergy Core FX を選択してロードします。コントロールは右側のセクションに表示されます。
- 左側のセクションでは、クリックしてドラッグして FX の順序を変更できます。各エフェクトの横にある [BP] ボタンを使用して、バイパスできます。
- Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac）を押しながらドラッグして、小さいステップでコントロールを調整します。
- 「How To」 ボタンは、インターネットブラウザで、Antelope Audio YouTube チャンネルのビデオチュートリアルプレイリストを示します。

## 6.3.5.6 ROUTING




このタブには、アナログおよびデジタルオーディオのルーティングを行うためのルーティングマトリクスが含まれています。ルーティングマトリクスで変更した内容は、コントロールパネルの他のタブやセクションの設定に全て反映されます。MIXERS、DIGITAL OUTS、LINE OUTS、HP/MONITOR OUT のインプットセレクターでソースを変更すると、ルーティングマトリックスも変更されます。

ルーティングマトリクスは行単位です。各行には固有の色があり、特定のオーディオ入力、または出力とその最大チャンネル数を表示します。

ルーティングマトリックスは大きく 2 つのセクションに分かれています。FROM (ソース) と TO (デスティネーション)です。色のついた番号のブロックをドラッグ＆ドロップすることで、それらの間で信号をルーティングします。また、以下のような機能も備えています。

- マウスの左クリックによるドラッグ＆ドロップで、FROM のチャンネルを TO セクションにルーティングします。例：PREAMP 1 を COMPUTER REC 1 にドラッグ＆ドロップする。
- 数字の書かれているブロックをクリックすると、そのチャンネルが現在ルーティングされているデスティネーションがハイライト表示されます。

- 数字のブロックをダブルクリックすると、そのテキストを変更することができます。変更されたテキストは、このチャンネルが入力セレクタで選択されている他のコントロールパネルのセクションにも反映されます。
- ソースチャンネルをクリックしてハイライト表示し、Shift + 左クリックで同じ行の右側のチャンネルをクリックすると、複数のソースを選択することができます。
- Ctrl/Command + Left-Click で複数のソースチャンネルを選択します。

**ルーティングマトリックス用語**

FROM:

PREAMP - 8 つのプリアンプ/コンボ入力を表します。

EMU MIC - 入力されたマイクオーディオにマイクエミュレーションが適用されたマイクプリアンプ入力 1〜8 を表します。これにより、以下のような興味深い可能性が生まれます。
・[PREAMP]列のドライマイクの音声と[EMU MIC]列のマイクエミュレーションの音声を、Synergy Core FX を挿した場合と挿さない場合で、DAW 上の別々のオーディオトラックに同時にモニタリングおよび録音することができます。
・エンジニア用の「ドライ」ミックスとアーティスト用の「マイクエミュレーション処理済み」ミックスなど、複数のモニタリングミックスを設定し、またすべてのミックスチャンネルに異なる FX チェーンを設定することができます。

COMP PLAY - DAW の出力 1-32（Thunderbolt™接続時）または DAW の出力 1-24（USB 接続時）を表しています。DAW からのオーディオを受信する場所ということになります。DAW で新しいトラックを作成し、一致する番号の出力を割り当てます（例：DAW [Output 1]=[COMP PLAY 1]）。OS メディア再生（iTunes、Spotify、YouTube、Zoom など）、DAW 出力など、すべてのコンピュータオーディオも表します。

ADAT IN - 最大 16ch 分の ADAT 光オーディオ入力を表し、それぞれ 8 チャンネル×2 ポートで構成されています。ADAT は S/MUX で動作しますのでご注意ください。

S/PDIF IN - 同軸 RCA ケーブルで受信する 2 チャンネルのステレオ S/PDIF オーディオを表しています。

AFX OUT - AFX OUT（「Antelope FX」の略）は、Synergy Core FX 処理をした 16 モノラルオーディオチャンネルからの出力を表しています。

MIXER 1-4 OUT – [Mixer]タブにある 4 つのバーチャル 32 チャンネルミキサーからのそれぞれのステレオ出力を表しています。チャンネル 1 が左、チャンネル 2 が右です。

TO:

LINE OUT - 1 つの D-Sub 25 コネクタから 8ch 分のライン出力を出力します（TASCAM 標準ピンレイアウト）。D-Sub コネクタは、8 つのモノラルオーディオチャンネルを提供します。

HP1 -ヘッドフォン出力 1 を 2 つのモノラル（L/R）チャンネルで表します。

HP2 – ヘッドフォン出力 2 を 2 つのモノラル（L/R）チャンネルとして表します。

MONITOR 1 -モニター出力を 2 つのモノラル（L/R）チャンネルで表します。

MONITOR 2 - 2 つ目のモニター出力または Reamp 出力として 2 つのモノラル（L/R）チャンネルで表します。NOTE：これは、コントロールパネルの MONITOR 2 セクションから切り替えられる MONITOR モードに出力が設定されているときのみ機能します。

REAMP - 2 つのモノ REAMP 出力を表し、DI オーディオトラックをギターアンプや他の適切な機器を通してリアンプするために送信するために使用されます。
**注意：**このメインパネルの MONITOR 2 セクションで切り替え可能な REAMP モードに設定されている場合のみ機能します。

COMP REC - DAW 入力 1-32(Thunderbolt™接続時) または DAW 入力 1-24(USB 接続時)を表します。録音時に DAW へオーディオを送信する場所です。[COMP REC]チャンネルを使用して録音するには、[Routing]タブからそのチャンネルにオーディオをルーティングします。DAW で新しいトラックを作成し、一致する番号の入力を割り当てます。
- 例 'COMP REC' 1 = DAW 'Input 1'.

ADAT OUT - 最大 16ch 分のモノラルオーディオチャンネルを ADAT 出力（2 ポート、それぞれ最大 8 モノラルチャンネル）へルーティングすることができます。ADAT は S/MUX で動作しますのでご注意ください。

S/PDIF OUT - 同軸 RCA ケーブルで出力する 2 つのオーディオチャンネルを表しています。

AFX IN - AFX IN（「AFX」は「Antelope FX」の略）により、Synergy Core FX にオーディオをルーティングすることができます。最大 16ch 分のモノラルチャンネルをルーティングでき、サンプルレートに関係なくそれぞれに最大 8 つのエフェクトを挿せます。Synergy Core FX は[AFX]タブの中にあります。

MIX 1-4 IN – [Mixer]タブには、それぞれ 32 インプットを持つ 4 つの低レイテンシー Direct Monitoring ミキサーがあります。この列では、オーディオをそれらにルーティングすることができます。

## 6.3.5.7 AuraVerb

MIXER 1 の各チャンネルにセンドとして適用できる Antelope 独自のリバーブエフェクトです。 MIXER 1 OUT 1 と 2 を Monitor/HP の左右にルーティングすれば、ヘッドフォンやモニターミックスに Auraverb を使用することが可能です。DAW で Auraverb を録音する場合は、MIXER 1 の OUT 1 と 2 を DAW セクションにルーティングする必要があります。

AuraVerb は、特別な新しいアプローチと独自のアルゴリズムを用いて、豊かな色彩感を提供します。リバーブには「Color」パラメーターを含む 8 種類のコントロールが搭載されており、ダークな質感から明るく艶っぽい存在感まで演出することができます。さらに、受賞歴のあるオーディオ・エンジニア兼プロデューサーの Brian Vibberts が手がけた 24 のプリセットが用意されています。

## Parameters

AuraVerb では次のパラメーターを使用できます。

### Color

カラーコントロールを使用すると、リバーブの全体的なトーンを調整できます。0 の場合、作成されたスペースは暗くなり、緑豊かなカーペットのようになります。100 では、リバーブが最も明るくなり、リードボーカルに「シズル」 を加えることができます。

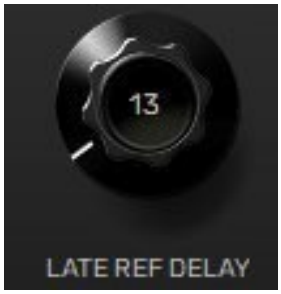
### PreDelay

ほとんどのリバーブに共通するプリディレイパラメータを使用すると、ソースとリバーブの開始の間に少しのスペースを作成できます。これは、リバーブからの最初の音に先行する遅延時間の量を制御することにより発生します。このパラメータは、未処理の信号よりも後の時間に残響信号を配置するために使用されます。
このための自然な設定は、環境のサイズに基づいており、範囲は 0 - 32 ミリ秒です。曲のテンポや曲の劇的なタイミングに関してこのパラメーターを微調整すると、ミックス内のリバーブの感触を設定するのに役立ちます。

### Early Reflection Gain

すべての初期反射のリニアゲイン値です。これらの反射は、低いレベルに設定すると知覚的に直接音とグループ化され、増加するとトラックをうまく太くすることができます。

### Late Reflection Delay



AuraVerb は仮想空間の側壁と天井からの反射エネルギーを計算します。Late Reflection Delay は、これらの反射バーストのディレイを制御し、エコーを作成するか、シミュレートされた音響空間の空間的印象をサポートします。

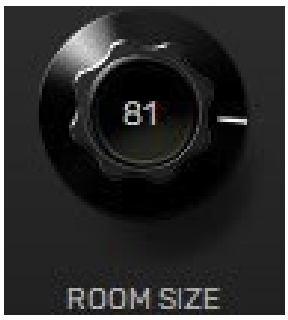
### Richness

Richness は、リバーブのエンベロープとニュアンスの減衰の複雑さを制御します。 0 では、減衰が少なくなり、減衰が明るくなります。この音は軽いか風通しが良いですが、豊かさを増すことにより、音に広がり感を加え、低周波数のリバーブ時間をスムーズに増やすことができます。

### Reverb Time

Reverb Time は減衰の長さを制御し、Room Size は仮想空間の寸法を増加させます。 知覚される減衰時間は、高周波数コンテンツを多く含むソースのリッチネスとカラーの影響も受けます。 一般的に、スペースのサイズが大きくなると、リバーブ時間も長くなります。リバーブ時間を 50% に設定すると、すべての部屋のサイズで自然な響きの尾が得られます。興味深い大きなスペースや微妙なアンビエンスリバーブは、[Room Size] パラメーターに対してリバーブタイムを異常に高くまたは低く設定することで作成できます。

### Room Size




仮想空間のサイズを増加させます。

### Reverb Level

これはリバーブの出力レベルコントロールです。 AuraVerb の入力は Mixer 1 のチャンネルの Send ノブに割り当てられているため、Send コントロールからチャンネルの音量レベルを調整し、Reverb Level を使用してマスターバスのリバーブの量を調整することをお勧めします。

### REVERB FX ON/OFF Switch

AuraVerb を有効または無効にします。

**Preset Manager**

プリセットマネージャーを使用すると、プリセットを保存およびロードできます。ドロップダウンメニューを使用して、プリセットを選択します。「S」 ボタンを使用してプリセットを保存します。「L」 ボタンを使用してプリセットをロードします。

## 6.3.5.8 MONITORING CONTROL

このセクションでは、異なる信号をモニターおよびヘッドホン出力に直接ルーティングし、その音量を調整することができます。

左上で、MONITOR 1、HEADPHONES 1、HEADPHONES 2、MONITOR 2 の切り替えができます。

各タブには、以下のものがあります。

- 2 つの左右のチャンネルの入力セレクター - 出力したいオーディオソースを選択します。
- ボリュームノブ - 出力される音量を調整します。
- ピークメーター - 出力される音声信号をリアルタイムで視覚化します。
- スイッチ - MONITOR と REAMP モードを切り替えます（MONITOR 2 タブでのみ使用可能）。各モードには、独立した入力セレクターがあります。
- Dim ボタン - 出力の音量を-20dB 減衰させます。
- Mute ボタン - 出力をミュートします。

# 7. afx2daw

afx2daw は、Synergy Core FX を DAW のインサートとして使用するためのブリッジプラグインです。 すべての Synergy Core FX 処理および I/O オーディオストリーミングアクティビティは、インターフェイスの DSP および FPGA プロセッサーによって処理されます。

afx2daw は、DAW の Synergy Core FX オートメーションの追加ボーナスにより、より迅速なワークフローを提供します。これは、他の方法では利用できません。

afx2daw は Thunderbolt™を介した Mac、または Windows コンピューターでのみサポートされています。

afx2daw の詳細と購入については ここをクリック してください。

## afx2daw のセットアップ

afx2daw を購入すると、Antelope Audio ユーザーアカウントに自動的に割り当てられます。キャンペーンで無償でいただいた場合、ライセンスの有無をアカウントダッシュボードの「My Software」タブより確認いただけます。

ご利用するために、以下の手順を従ってください。

1. Antelope Launcher を開き、ご自身のアカウントでログインしてください。
2. 「Plug-ins」 タブをクリックしてください。 「afx2daw」 の最新バージョンをダウンロードしてインストールしてください。
3. 「Devices」タブより、afx2daw を使いたいデバイスの下で、「Manage Device」のボタンをクリックしてください。
4. 「Register device or assign features」より、afx2daw、またはそれを含むバンドルをインターフェイスとペアできます。

5. お好きな DAW アプリケーションで、プラグインメニューより afx2daw をモノラル、またはステレオプラグインとしてロードできます。

プラグイン画面より、下記のような設定がご利用できます。

- 「ADD NEW EFFECT」メニューより、FX をバーチャルラックに追加できます。
- 「SAVE」と「LOAD」ボタンで FX チェーンを保存、または呼び出しできます。
- 「BP ALL」と「DEL ALL」ボタンで FX をバイパス、またはクリアできます。「DEL ALL」ボタンは、Cmd/Ctrl＋クリックで動作します。
- ボタン下のドロップダウンメニューよりプリセットをロードできます。
- 各エフェクトの隣、「BP」ボタンでバイパスできます。
- Cmd/Ctrl+クリックで各 FX パラメーターを微調整できます。

# 8. 製品仕様

| | |
|---|---|
| Analog Inputs | 6 x Mic / Line Inputs<br><br>2 x Mic / Line / Hi-Z inputs |
| Analog Outputs | 2 x Monitor Out on TRS 1/4 Jacks, +20 dBu max (switchable to REAMP outputs)<br><br>8 x Line Outs on TRS, +20 dBu max, DC-Coupled 2 x Stereo Headphone Outputs |
| Mic Preamp | EIN: -128 dBu (A-weighted)<br><br>Dynamic Range: -121 dB (A-weighted) THD: -106 dB<br><br>Max input: +18 dBu<br><br>Max Gain: 65dB |

| | |
|---|---|
| D/A Monitor Converter | Dynamic Range: 130 dB<br><br>THD + N: -115dB |
| A/D Converter | Dynamic Range: 122 dB<br><br>THD + N: -112 dB |
| D/A Converters (Line Out) | Dynamic Range: 118dB<br><br>THD + N: - 100dB |
| Digital Inputs | 2 x ADAT (up to 16CH)<br><br>1 x S/PDIF |
| Digital Outputs | 2 x ADAT (up to 16CH)<br><br>1 x S/PDIF |
| USB 2.0 I/O | USB 2.0 Type B connector |
| Thunderbolt™ | Thunderbolt™ 3 connector |
| Word Clock Inputs | 1 x Input @ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 – 192kHz |
| Word Clock Outputs | 3 x Outputs @ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 – 192kHz |
| Clocking System | 4th Generation Acoustically Focused Clocking & Jitter Management<br><br>64-bit DDS |
| Sample Rates (kHz) | 32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192 |
| Bit depth | 24 |

# 9. カスタマーサポート情報

Antelope Audio のカスタマーサポートは、以下の手段で受け付けています。

**オンライン**

https://jp.antelopeaudio.com/support/contact-us/にアクセスしてください。

**その他のリソース**

- Antelope Audio の YouTube チャンネルでは、様々なチュートリアルビデオやエンドーサーのコンテンツが公開されており、参考になったりインスピレーションを受けたりすることができます。
- カスタマーサポートの Knowledge Base は、トラブルシューティングの情報、よくある質問に対する回答、Antelope のノウハウなど、見落としがちな情報源です。

### お手持ちの Antelope Audio 製品に不具合がある場合どうしたらよいですか？

ご自身で解決できない場合は、ハードウェアに問題があるかどうかを確認させていただきますので、弊社までご連絡ください。その場合、修理の手順をご案内いたします。返品が必要な場合は、RMA ナンバーを発行し、手続きを開始します。

**RMA 番号とは何ですか？**

RMA（Return Merchandise Authorization）番号の発行は、工場でのサービスまたは修理手順に必要なものです。RMA 番号の発行を受けずにデバイスをお送りいただくと、デバイスが返送され、修理ができなくなりますのでご注意ください。

**RMA 番号はどのように取得するのですか？**

Antelope Audio のカスタマーサポートチームが RMA 番号の発行を担当しています。https://jp.antelopeaudio.com/support/contact-us/ にアクセスし、連絡を取ってください。

RMA が発行された後、手続き方法が記載されたメールが届きます。

**RMA 発送に関する情報**

返品する製品と一緒に、お客様のフルネーム、配送先住所、弊社テクニカルサポートチームが発行した RMA 番号、技術的な問題に関する簡単な情報を記載した手紙を同封してください。

可能であれば、オリジナルの箱を使用してください。使い古された箱では、アンテロープ・オーディオ本社に届くまでに製品を十分に保護できない可能性があります。衝撃、振動、様々な裂け目や傷から守るために、ユニットと箱の壁の間に何層ものクッション材を追加してください。

輸送中に元の出荷ラベルが判読できなくなる場合に備えて、ラベルや古い出荷印はすべて取り除き、箱の内側に送付先住所を追加するようにしてください。

送料は製品の所有者が負担します。Antelope Audio は通関手数料を負担いたしません。

ご希望の宅配便をご利用になることをお勧めします。パッケージには実際の価値に見合った保険がかけられ、壊れやすいとマークされ、追跡番号が提供される必要があります。通常のメール便の利用はお勧めしません。

すべての発送書類に、Antelope Audio のテクニカルサポートから発行された RMA 番号を忘れずに記入してください。

Antelope Audio は、Antelope Audio 本社への配送途中での紛失や破損など、未配送のパッケージについては責任を負いかねますのでご了承ください。損害賠償請求については、選択した配送業者へお問い合わせください。

Antelope Audio は、梱包不良による製品破損の修理費用については一切負担いたしません。